

授 業 名	観光英会話			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Travel English			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	松尾 章子			対 象 学 生	歴史2回生			
授業の概要	リスニングとスピーキング、観光や旅行の際に必要とされる初歩的な語彙や表現に重点をおいて学習する。ネイティブの英語話者が普段使用している表現も学ぶ。旅行実務英語に関する英語については、希望者が多ければ授業に取り入れる。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 身近な場では会う外国人とのコミュニケーションに慣れ、スモールトークを行うことができる。 2) ナチュラルスピードの英語に慣れ、相手が求めている情報は何かを理解することができる。 3) ファストフード店やレストランの簡単な対応を行うことができる。							
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 ( )	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	工藤多恵著 『すぐに使える！ニッポン案内』センゲージラーニング株式会社 2000円＋税							
参 考 書	観光英検センター編 『新・観光英検3級の過去問題』 三修社							
留 意 事 項	テキストの会話表現を授業外で何回も声に出して読み練習してください。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を掲示するので、確認してください。							

授 業 名		観光英会話
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction Unit 10: 道案内	(内 容) 本授業の到達目標、進め方の説明、pp. 85-88 (必要な準備) 本授業のシラバスを読む
第2回	Unit 10: 道案内	(内 容) pp. 91-92 (必要な準備) pp. 91-92の問題、前回学習箇所の表現練習
第3回	Unit 9: 旅行者への観光案内	(内 容) pp. 81-82 (必要な準備) pp. 81-82の問題、前回学習箇所の表現練習
第4回	Unit 11: 交通機関の利用案内や観光施設の情報提供	(内 容) pp. 93-98 (必要な準備) pp. 93-98の問題、前回学習箇所の表現練習
第5回	Unit 1: ファストフード店での注文対応	(内 容) pp. 9-14 (必要な準備) pp. 9-14の問題、前回学習箇所の表現練習
第6回	学外学習1(道案内 時間割等の都合により実施回が前後することがある)	(内 容) 街で英語を使用して道案内にトライ! (必要な準備) Unit 10の表現練習
第7回	Unit 2: レストランでの来客対応	(内 容) pp. 17-22 (必要な準備) pp. 17-22の問題、前回学習箇所の表現練習
第8回	Unit 3: レストランでの接客サービス	(内 容) pp. 25-30 (必要な準備) pp. 25-30の問題、前回学習箇所の表現練習
第9回	Unit 4: コンビニやスーパーでの接客サービス	(内 容) pp. 33-38 (必要な準備) pp. 33-38の問題、前回学習箇所の表現練習
第10回	学外学習2(観光案内 時間割等の都合で実施回が前後することがある)	(内 容) 街で英語を使用して観光案内にトライ! (必要な準備) Units 9-11の表現練習
第11回	Unit 5: 買い物や飲食の会計	(内 容) pp. 41-46 (必要な準備) pp. 41-46の問題、前回学習箇所の表現練習
第12回	Unit 6: 商品やサービスへの苦情対応	(内 容) pp. 49-54 (必要な準備) pp. 49-54の問題、前回学習箇所の表現練習
第13回	Unit 7: ホテルや旅館での宿泊客受付	(内 容) pp. 61-66 (必要な準備) pp. 61-66の問題、前回学習箇所の表現練習
第14回	Unit 8: 商業施設でのサービス提供や近隣情報の案内	(内 容) pp. 69-74 (必要な準備) pp. 69-74の問題、前回学習箇所の表現練習
第15回	Unit12: 券売機や電化製品の使用方法の説明	(内 容) pp. 101-106 (必要な準備) pp. 101-106の問題、前回学習箇所の表現練習

授業名	人物史			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	History of Great People			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	新矢 昌昭			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	この講義では、歴史上の人物の中から京都に関係の深い人物を選び、その人物から当時の社会を確認し、歴史的、文化的な意義を考えたい。本講義では「敗れた」人物や悲劇の人物について考えたい。そして取り上げる人物を巡る様々な人物を対置させ、「敗れた」人物や悲劇の人物の目指した理想や理念を考える。「敗れた」人物や悲劇の人物に焦点を当てるのは、その人物の持つ可能性や意義を考えることで、多様な歴史観、あるいは現在に通じることを学べるからである。							
学習成果到達目標	1) 現代に生きるわれわれにとって、取り上げた人物から彼らの時代的な意義を掴む。 2) 何故、人々は人物に「共感」するのかを考える。 3) 時代と人物との関係を把握する。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (歴史的汎用)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	使用しない。							
参考書	講義中に指摘する。							
留意事項	わからない箇所は、講義後に聞くこと。							
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する							

授 業 名		人物史
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 人物史とは何か (必要な準備) 自身の好きな歴史的人物について調べておく(30分)。
第2回	人物史の方法	(内 容) 人物から歴史を考える (必要な準備) どのような人物が主として取り上げられているのかを高校の教科書から調べておく(60分)。
第3回	平氏と源氏を巡る人々－源頼朝	(内 容) 平家と源氏の盛衰と両者の理想を考える (必要な準備) 頼朝の基本的な理解をしておく(60分)。
第4回	平氏と源氏を巡る人々－平維盛と重衡	(内 容) 人物から平氏政権の特徴と滅亡を考える (必要な準備) 平維盛と重衡の基本的な理解をしておく(60分)。
第5回	北条高時の悲劇	(内 容) 高時は本当に愚か者なのか (必要な準備) 高時の基本的な理解をしておく(60分)。
第6回	北条高時と鎌倉炎上	(内 容) 高時の教訓 (必要な準備) 鎌倉滅亡に至る『太平記』の配布史料を一読しておく(60分)。
第7回	足利義教－くじ引き将軍	(内 容) くじ引き将軍の目指したもの (必要な準備) 義教についての基礎的な理解をしておく(60分)。
第8回	足利義教－恐怖政治	(内 容) くじ引き将軍の目指したもの (必要な準備) 歴史的な恐怖政治の共通項について考えておく(60分)。
第9回	近代人、織田信長	(内 容) 信長の世界観 (必要な準備) 信長の基礎的な理解をしておく(30分)。
第10回	織田信長と本能寺の変－光秀は犯人ではない	(内 容) 信長を殺したのは誰か (必要な準備) 信長と明智光秀の関係の基礎的な理解をしておく(60分)。
第11回	織田信長と本能寺の変－黒幕の存在	(内 容) 信長を殺しを巡る人々 (必要な準備) 信長と明智光秀について基礎的な理解をしておく(60分)。
第12回	豊臣秀次	(内 容) 秀次は、本当に「殺生関白」なのか (必要な準備) 秀次についての基本的な理解をしておく(30分)。
第13回	豊臣秀次、フィールドワーク	(内 容) 豊臣秀次の墓地 (必要な準備) 秀次の死についての理解(30分)。
第14回	幕末の京都を巡る人々－新撰組	(内 容) 芹沢鴨は本当に乱暴者なのか (必要な準備) 幕末水戸藩についての理解(60分)。
第15回	幕末の京都を巡る人々－新撰組と会津藩	(内 容) 会津藩と新撰組。彼らは、何故京都人から嫌われたのか (必要な準備) 京都守護職を理解しておく(30分)。

授業名	京都文化特論（伝統産業）（京の伝統芸術）			開講学年	1・2回生	単位数	2単位	
英文名	Kyoto Culture II (Traditional Industry)			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	工藤 美和子			対象学生	歴史1回生、2回生			
授業の概要	現在の京都の景観は18世紀末の天明の大火後のものである。つまり伝統産業と伝統芸術は何度も途切れているのが現状である。では、京都の伝統産業と伝統芸術が現在のように注目されるようになったのはどのような理由があつたことだろうか。その点について、19世紀末イギリスで始まったアーツ・アンド・クラフト運動とジャポニズムとの関連から考えてみたい。							
学習成果到達目標	伝統とは、産業とは、芸術とは、私たちが何気なく使っている言葉がいつ頃誕生し、中断と継続を繰り返してきたのかについて知るとともに、京都の産業・芸術がもたらす課題について考えることを目標とする。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 )	(	課題発見・解決能力	)	
テキスト	特になし。							
参考書	京都商工会議所編『京都・観光文化検定試験公式テキストブック』（淡交社、2016年） 適宜紹介する。							
留意事項	当たり前だと思っていることが果たしてそうなのかという疑問点と考察することを失わないこと。							
オフィス アワー	第1回目の授業で指示する。							

授 業 名		京都文化特論 (伝統産業)(京の伝統芸術)	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業のすすめ方。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第2回	伝統・産業・芸術とは何か	(内 容) 伝統・産業・芸術の概念について学ぶ。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第3回	アーツ・アンド・クラフト運動と日本への影響	(内 容) アーツ・アンド・クラフト運動が及ぼした日本への影響を学ぶ。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第4回	京都はいかに創られたか	(内 容) 創造された京都について学ぶ。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第5回	近代化の轍(1) 京都の挽回策 疎水事業	(内 容) 京都の近代化産業について学ぶ。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第6回	近代化の轍(2) 学外見学	(内 容) 琵琶湖疎水をめぐる。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第7回	近代化の轍(3) 歓び楽しむ産業のはじまり	(内 容) 京都の歓楽産業について学ぶ。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第8回	近代化の轍(4) 庭見て君何想う	(内 容) 寺社や別荘の庭園の歴史について学ぶ。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第9回	近代化の轍(5) 学外見学	(内 容) 無鄰庵見学を行う。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第10回	近代化の轍(6) 京の御土産話	(内 容) 江戸時代から続く京都の芸術産業について学ぶ。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第11回	近代化の轍(7) 京扇子	(内 容) 京扇子について学ぶ。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第12回	近代化の轍(8) 京焼	(内 容) 京焼の発祥と展開について学ぶ。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第13回	近代化の轍(9) 染織	(内 容) 京都の染織について学ぶ。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第14回	近代化の轍(10) 学外見学	(内 容) 清水焼か京扇子いずれかを見学する。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第15回	まとめ	(内 容) 授業のふり返り。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	

授業名	京の服装文化			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Culture of Kyoto Clothing			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	馬場 まみ			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	現在の和服が形成されるまでの歴史を学ぶ。さらに、服装に用いられた様々な染織技法について理解する。 1. 古代の貴族の服装と染織技法 2. 中世の武家の服装と染織技法 3. 近世の町人の服装と染織技法							
学習成果到達目標	1) 和服がどのように形成されてきたのかを説明することができる。 2) 服装に用いられてきた染織技法の概略を説明することができる。							
評価方法	定期試験 ( 90 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 10 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 ( 思考力 )	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )			
テキスト	使用しない							
参考書	随時指示する							
留意事項								
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。							

授 業 名		京の服装文化
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 本講義の目標 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(10分)
第2回	奈良時代までの服装文化	(内 容) 奈良時代までの服装文化について学ぶ。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第3回	平安時代の服装文化：文化の特色と服装	(内 容) 平安時代の社会の概要について理解する。 (必要な準備) 平安時代について調べる。(30分)
第4回	平安時代の服装文化：男性の服装	(内 容) 平安時代の貴族男性の服装について学ぶ。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第5回	平安時代の服装文化：女性の服装	(内 容) 平安時代の貴族女性の服装について学ぶ。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第6回	平安時代の服装文化：色と文様	(内 容) 平安貴族の服装の色と文様の特色について理解する。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第7回	染色技法の解説	(内 容) 天然染料を用いた染色技法の基礎を理解する。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第8回	鎌倉・室町時代の服装文化	(内 容) 中世の武家の服装文化を学ぶ。 (必要な準備) 中世の文化について調べる。(30分)
第9回	桃山時代の服装文化	(内 容) 桃山時代の特色と服装文化について学ぶ。 (必要な準備) 桃山時代の文化について調べる。(30分)
第10回	近世社会の概要	(内 容) 近世社会の概要を学ぶ。 (必要な準備) 近世の文化について調べる。(30分)
第11回	江戸時代の服装文化：江戸時代前期の服装	(内 容) 江戸時代前期の小袖の特色を学ぶ。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第12回	江戸時代の服装文化：染織技法	(内 容) 江戸時代に用いられた染織技法を理解する。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第13回	江戸時代の服装文化：友禅染の開発	(内 容) 友禅染開発の経緯とその特徴を理解する。 (必要な準備) 友禅染について調べる。(30分)
第14回	江戸時代の服装文化：身分と服装	(内 容) 武家の服飾と町人の服飾の違いを学ぶ。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第15回	まとめ	(内 容) 全体の総括 (必要な準備) これまでの講義内容を振り返る。(30分)



授業名	京の年中行事			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Annual Events of Kyoto			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	土井 哲治			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	国会図書館本『十二月遊び』を読みながら、京都の四季を通じた様々な年中行事を理解し、現代にまで続くその歴史的展開について考える。絵画資料の見方も習得する。							
学習成果到達目標	1) 京都の年中行事を学び、京都の歴史や文化への理解を深める。 2) 京都の年中行事について語れるようになる。							
評価方法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 )	(	課題発見・解決能力	)	
テキスト	随時資料を準備する。							
参考書	随時紹介する。							
留意事項	毎回担当者を決めて発表してもらう。							
オフィス アワー	初回授業時に提示する。							

授 業 名		京の年中行事	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	導入	(内 容) テキストと講義の進め方についての説明 (必要な準備) 国会図書館のHPでテキストを見ておく。	
第2回	序文	(内 容) 京都の暮らしについての学習 (必要な準備) 翻字と下調べ	
第3回	一月	(内 容) 一月の箇所の講読と「日次記事」についての説明 (必要な準備) 翻字と左義長の下調べ	
第4回	二月	(内 容) 二月の箇所の講読 (必要な準備) 翻字と節分の下調べ	
第5回	三月	(内 容) 三月の箇所の講読 (必要な準備) 翻字と桃の力の下調べ	
第6回	四月	(内 容) 四月の箇所の講読 (必要な準備) 翻字と灌仏の下調べ	
第7回	五月	(内 容) 五月の箇所の講読 (必要な準備) 翻字と印地の下調べ	
第8回	六月	(内 容) 六月の箇所の講読 (必要な準備) 翻字と犬神人の下調べ	
第9回	七月	(内 容) 七月の箇所の講読 (必要な準備) 翻字と盆踊りと雑魚寝の下調べ	
第10回	八月	(内 容) 八月の箇所の講読 (必要な準備) 翻字と月の桂の下調べ	
第11回	九月	(内 容) 九月の箇所の講読 (必要な準備) 翻字と菊慈童の下調べ	
第12回	十月	(内 容) 十月の箇所の講読 神無月の起源説の説明 (必要な準備) 翻字と竜田川の下調べ	
第13回	十一月	(内 容) 十一月の箇所の講読 (必要な準備) 翻字と庭火の下調べ	
第14回	十二月	(内 容) 十二月の箇所の講読 (必要な準備) 翻字と樺の下調べ	
第15回	まとめ	(内 容) 講義内容の総括 (必要な準備) 講義の総復習	

授 業 名	日本思想史			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	History of Japanese Thought			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	歴史2回生			
授業の概要	古代・中世・近世・近代という各時代の中で重要な役割を果たしてきた思想に注目し、私たちが当たり前だと思っている観念や諸思想がどのように発生し、展開していったのかについて歴史的背景もとりいれて考察する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	講義で触れた思想を基にして現代社会を考えるきっかけを掴む。							
評 価 方 法	定期試験 ( 100 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	)		
テ キ ス ト	授業中に資料を配付する。							
参 考 書	授業中に紹介する。							
留 意 事 項	思想の背景にある歴史を抑えておくこと。また、資料の輪読を取り入れる予定である。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回目の授業にて指示する。							

授 業 名		日本思想史	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 日本思想史とは何か。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第2回	日本思想史の方法	(内 容) 日本思想史をどのように学ぶのか (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第3回	花の思想史 古代	(内 容) 花、とくに桜について日本人がどのような思想的理解をもっていたかについて学ぶ。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第4回	花の思想史 中世	(内 容) 中世に花への見方や観念、思想がどのように変化したかについて学ぶ。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第5回	花の思想史 近世	(内 容) 花見による花に対する思想の変化を学ぶ。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第6回	花の思想史 近代	(内 容) 近代化による花に対する思想の変化を学ぶ。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第7回	まとめ	(内 容) 花の思想史のまとめをする。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第8回	死の思想史	(内 容) 死を日本人はどのようにとらえてきたのかについて学ぶ。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第9回	死の思想史 それ菩薩の化身なり	(内 容) 古代の人々の死の観念や思想について、史料を用いて学ぶ。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第10回	死の思想史 死より死後	(内 容) 古代の人々が抱いていた死の思想が現代の我々と異なるところがなかろうか学ぶ。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第11回	死の思想史 殺生ということ	(内 容) 中世の死生観について学ぶ。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第12回	死の思想史 忠と孝	(内 容) 近代の死生観について学ぶ。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第13回	『戦争は女の顔をしていない』を読む	(内 容) 近代の死と全体主義について学ぶ。 (必要な準備) アレクシエーヴィッチ『戦争は女の顔をしていない』より、戦争がもたらす個人と全体主義について考える。	
第14回	『戦争は女の顔をしていない』	(内 容) アレクシエーヴィッチ『戦争は女の顔をしていない』より、戦争がもたらす個人と全体主義について考える。 (必要な準備) 授業終了後は必ず復習すること。	
第15回	まとめ	(内 容) 人間の思想とは何か。 (必要な準備) 自己の考えをまとめておく。	

授業名	京都学			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Studies of Kyoto			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	土井 哲治			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	<p>日本のみならず全世界から魅力ある都市と認められている京都の魅力の掘って来たるところの一端を、人文科学的な手法で探求していき、京都学とはどういうものであるかを理解していただく。授業は講義だけでなく、フィールドワークや演習の形で能動的な形態も交えて進める。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 京都学についてイメージできる。  2) 岡崎地域について語れる。  3) 洛中洛外図の一部について説明できる。  4) 鯖街道と雲母坂を説明できる。  5) 京都に関する研究方法の一端を修得している。</p>							
評価方法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	)		
テキスト	随時資料を配付する。							
参考書	随時紹介する。							
留意事項								
オフィス アワー	初回授業時に提示する。							

授 業 名		京都学	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	導入 京都学とは	(内 容) 授業の進め方と京都学について説明 (必要な準備) シラバスを読んでくる。	
第2回	疎水と南禅寺別荘群	(内 容) 疎水完成後の用途の変更と南禅寺上げ地の別荘群について講義 (必要な準備) 田邊朔郎について調べてくる。	
第3回	植治	(内 容) 本学ゆかりの久原邸と七代目小川治兵衛の庭について講義 (必要な準備) 久原房之助について調べてくる。	
第4回	無鄰庵見学	(内 容) 山県有朋の京都別邸無鄰庵の見学 (必要な準備) 無鄰庵会議について調べてくる。	
第5回	磯田多佳と谷崎潤一郎	(内 容) 源光庵ゆかりの両名について講義 (必要な準備) 谷崎潤一郎について調べてくる。	
第6回	岡崎フィールドワーク	(内 容) これまでの授業で扱った内容に関する岡崎地域のフィールドワーク (必要な準備) これまでの授業を復習しておく。	
第7回	洛中洛外図について	(内 容) 洛中洛外図についての説明と担当の決定 (必要な準備) 洛中洛外図を画像検索して見ておく。	
第8回	洛中洛外図・東	(内 容) 洛中洛外図の東側の絵画の自由研究 (必要な準備) 担当者は発表の準備をし他の者は画像をよく見ておく。	
第9回	洛中洛外図・南	(内 容) 洛中洛外図の南側の絵画の自由研究 (必要な準備) 担当者は発表の準備をし他の者は画像をよく見ておく。	
第10回	洛中洛外図・西	(内 容) 洛中洛外図の西側の絵画の自由研究 (必要な準備) 担当者は発表の準備をし他の者は画像をよく見ておく。	
第11回	洛中洛外図・北	(内 容) 洛中洛外図の北側の絵画の自由研究 (必要な準備) 担当者は発表の準備をし他の者は画像をよく見ておく。	
第12回	ほっちち	(内 容) 京都の童歌を通して京都人気質について講義 (必要な準備) 大阪の「ほっちち」を調べておく。	
第13回	京言葉	(内 容) 関西方言と京言葉について講義 (必要な準備) 課題プリントをやってくる。	
第14回	洛外の道・鯖街道	(内 容) 鯖街道に関する自由研究 (必要な準備) 担当者は発表の準備をし他の者は地図をよく見ておく。	
第15回	洛外の道・雲母坂	(内 容) 雲母坂に関する自由研究 (必要な準備) 担当者は発表の準備をし他の者は地図をよく見ておく。	

授業名	京都文化特論（京の文学）			開講学年	1・2回生	単位数	2単位	
英文名	Kyoto Culture IV (Literature in Kyoto)			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	土井 哲治			対象学生	歴史1回生、歴史2回生			
授業の概要	比較的平易な古語で書かれた、説話と噺本の中から京を舞台とする話を精読し、活き活きとした京の人々の姿や思いも掛けない姿を、理解して貰おう。							
学習成果到達目標	1) 生身の京に生きた人々の姿を十分理解し、説明することができる。 2) 各時代の人々の物の考え方を説明できる。 3) 古語をある程度理解できる。							
評価方法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 )	(	課題発見・解決能力	)	
テキスト	配布プリント							
参考書								
留意事項	毎回の講義の終了時に次回の教材を配布するので、必ず予習しておくこと。							
オフィス アワー	初回の授業時に提示する。							

授 業 名		京都文化特論 (京の文学)	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	導入	(内 容) 授業の概要と評価方法について (必要な準備)	
第2回	説話を読む・偷盗	(内 容) 『今昔物語』第二十九巻・第三話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。	
第3回	説話を読む・信仰	(内 容) 『今昔物語』第二十九巻・第二十三話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。	
第4回	説話を読む・夢	(内 容) 『宇治拾遺物語』第五巻・第一話と第六巻・第四話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。	
第5回	説話を読む・庶民生活	(内 容) 『宇治拾遺物語』第六巻・第四話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。	
第6回	説話を読む・利口	(内 容) 『十訓抄』第一巻・第十八話と第四十一話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。	
第7回	説話を読む・好色	(内 容) 『古本説話集』第六話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。	
第8回	説話を読む・英知	(内 容) 『古本説話集』第六十六話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。	
第9回	説話を読む・優れた女	(内 容) 『古今著聞集』巻第十二・第四三三話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。	
第10回	説話を読む・したたかな女	(内 容) 『古今著聞集』巻第八・第三二二話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。	
第11回	説話を読む・強い女	(内 容) 『古今著聞集』巻第五・第一九〇話と巻第八・第三一九話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。	
第12回	噺本を読む・笑話	(内 容) 『醒睡笑』より5話程度 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。	
第13回	噺本を読む・信長	(内 容) 『きのふはけふの物語』より5話程度 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。	
第14回	噺本を読む・批判精神	(内 容) 『一休咄』より5話程度 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。	
第15回	まとめ	(内 容) 総括と質問。定期試験の課題への取り組み方についての説明。 (必要な準備) 質問の用意。	